

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 9月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1072400292
法人名	株式会社 彩華舎
事業所名	グループホーム さいら
所在地	群馬県甘楽郡甘楽町大字小幡376-1 (電話) 0274-74-7666

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年8月14日

【情報提供票より】(21年4月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	9月	1日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	8人	常勤	5人	非常勤 3人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	0円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月14日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.2歳	最低	78歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	庭谷クリニック・小幡医院・公立富岡総合病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

総括施設長・管理者と職員は連携を密にしなが、前向きな姿勢でケアの実践に取り組んでいる。利用者一人ひとりがその人らしく暮らせるよう、思いや意向の把握に努め、生活環境の整備や活動の場面づくり等の工夫をしながら、心身機能の維持・向上に繋げている。城下町小幡の自然豊かな環境に立地しており、庭の木々や花壇は美しく整備されている。隣接する菜園では利用者と職員が野菜づくりをし、収穫した野菜は食卓に添えられている。玄関先にテーブルとベンチを設置しており、利用者は里山の風景を眺めながら、日向ぼっこやお茶飲み等をしている。職員の温かい見守りの中で、利用者が家事や趣味等でイキイキと活動し、猫や小鳥とふれあいながらゆったりと生活している。地域に開かれたホームを目指しており、今後更なるケアの質の向上が期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着型サービスとしての理念については、地域密着型サービスの意義や役割を確認しながら、職員全員で提案、検討し合い、事業所独自の理念をつくりあげている。評価の意義の理解と活用については、今回の自己評価は職員全員で分担し、会議等で検討し合い作成している。課題は全て改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は、評価の意義や目的を理解しており、今回の自己評価については、職員全員で分担し、会議等で検討し合い作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は(2月末開催を除き)2ヶ月に1回開催している。サービスの状況や職員の異動、評価への取り組み等について報告し、出席者からの意見や要望を受け、意見交換を行っている。出された意見等については、スタッフ会議で検討し、サービスの質の向上に活かしている。8月に避難誘導訓練・消火訓練を実施した際には、運営推進会議のメンバーや地域住民も参加しており、災害時の協働体制も図られている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等の来訪時には、日々の生活の様子を詳しく報告している。身体状況の変化については、随時電話にて連絡している。運営推進会議に出席した家族等からは意見や要望等を聴くように努めている。苦情・要望解決適正化委員会要領を作成し家族等への周知を図り、意見箱も設置している。出された意見・要望等は職員間で話し合い、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の人達とは、外出時等に挨拶を交わしたり、草むしりを手伝ってもらうこともある。地元の祭りに参加したり、地元の店で買物をし、総合公園や温泉センター等を利用して、地域住民と交流することに努めている。中学校の吹奏楽部員が演奏で訪れたり、保育園児と母親たちがお遊戯やコーラスで慰問に訪れている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義や役割を確認しながら、職員全員で提案、検討し合い事業所独自の理念をつくりあげている。	<input type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や事務所の見やすい場所に理念を掲示し、管理者は日々の指導や月1回のスタッフ会議等で理念に基づいたアドバイス等を行い、職員と理念を共有しながら理念の実践に向けて取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人達とは、外出時等に挨拶を交わしたり、草むしりを手伝ってもらうこともある。地元の祭りに参加したり、地元の店で買物をし、総合公園や温泉センター等を利用しており、地域住民と交流することに努めている。中学校の吹奏楽部員が演奏で訪れたり、保育園児と母親たちがお遊戯やコーラスで慰問に訪れている。	<input type="checkbox"/>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義や目的を理解しており、今回の自己評価については職員全員で分担し、会議等で検討し合い作成している。前回の外部評価については評価の結果を踏まえ、会議等で話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。また、他事業所の評価をプリントアウトし、職員に回覧し活用している。	<input type="checkbox"/>	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は(2月未開催を除き)2ヶ月に1回開催されている。サービスの状況や職員の異動、評価への取り組み等について報告し、出席者からの意見や要望を受け、意見交換を行っている。出された意見等については、スタッフ会議で検討し、サービスの質の向上に活かしている。	○	運営推進会議は外部の目を通して、事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合い、地域の理解と支援を得るための貴重な機会である。2ヶ月に1回は定期的開催し、そこでの意見等をサービスの質の向上に活かして欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、管理者が町役場に出向き、担当者に写真付きの詳細な報告書とホーム便り「happy lifu」を提出している。日常的に入退去や事故関連の報告等を行っており、連携が図られている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月ホーム便り「happy lifu」を発行し、家族等に送付している。家族等の来訪時には、日々の生活の様子を詳しく報告しており、電話で報告する場合もある。身体状況の変化については、随時電話で連絡を取り、こまめな報告を行っている。金銭管理の報告は定期的に行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族の代表者が毎回出席しており、意見や要望を聞く機会としている。また、苦情・要望解決適正化委員会要領を作成し、家族等への周知を図ったり、意見箱を設置し、出された意見等はスタッフ会議で話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等は最小限に抑えるよう努めている。職員が退職する際は事情等を説明し、利用者と一緒にお別れ会を行っている。職員が代わる場合には、利用者・家族等に紹介し、1か月程度施設長等が、業務やコミュニケーションのフォローをしながら共に支援にあたり、引継ぎがスムーズにできるよう配慮している。		
来て					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に行われている法人内研修や介護支援専門員現任者研修、防火管理者研修、新型インフルエンザに関する研修、西毛地域緩和ケアネットワーク学習会等の外部研修に参加し、会議等で研修内容の報告を行っている。医師を講師に招き、事業所で「せん妄」の勉強会を開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、南部ブロックに所属している。交換研修やイベント等に参加し、地域の同業者と交流する機会を持ちながら、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に病院へ訪問したり、家族等から聴き取りを行っている。本人・家族等の見学の際には、お茶を飲んだり、職員と会話をしながらホームの雰囲気等を見てもらい、納得して利用できるよう支援している。入居後も、本人のニーズの把握や他の利用者・職員との関係づくりに努め、家族等の協力を得ながら、徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に生活しながら、日常の生活場面で畑仕事や焼もちの作り方、ことわざ、戦争体験の話等、利用者から教えてもらうことも多く、共に過ごし支えあう関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情、行動の中から、本人の思いや希望を把握するよう努めている。家族等からも情報を得るようにしており、職員間で共有し日々のケアに活かすようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族等には、日々のかかわりの中で思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。主治医や看護師とも意見交換を行い、担当職員が他の職員の意見や気づきを取りまとめ、スタッフ会議で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを3ヶ月毎に行い、介護計画の見直しは、3ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。職員間で話し合い、本人・家族等に確認しながら、現状に即した新たな介護計画を作成している。	○	新たな要望や状態に変化が見られない場合でも、本人や家族等の意向や状況を確認しながら、月に1度はモニタリングを行い、介護計画の遂行状況や効果等を評価していったほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等の要望や状況に応じて、受診・通院介助、買物支援、美容院への送迎等、柔軟に対応している。医療連携体制や介護予防認知症対応型共同生活介護等の指定を受け、多機能性を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医で適切な医療を受けられるよう支援している。協力医療機関と連携を図っており、月1回かかりつけ医による往診支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りに関する指針」が作成されている。終末期に向けての方針が決まった際には、家族等から有事における同意を得ている。かかりつけ医や看護師と連携を密にし、本人・家族等のその時々意向を確認しながら、必要に応じて随時対応方法を話し合い、全員で方針を共有している。これまでに2名の看取りを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入職時には、守秘義務に関する覚書を取り交わしている。言葉づかい等、不適切な言動については適時に指導を行い、利用者の自尊心を傷つけない声かけや対応を行うように努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調やその時の気持ち等を尊重しながら、起床や就寝時間・食事のペース・入浴・散歩・役割・レクリエーション等、その人の生活リズムで居心地よく過ごせるように、柔軟な対応を心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は力量に応じて、野菜の皮むき・調理・盛り付け・テーブル拭き・後片付け等を職員と一緒にやっている。畑で収穫した野菜は食材として調理されている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるよう支援している。好きな飲み物・お茶菓子等を選ぶ場面づくりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯等は設定せずに、毎日入浴の準備をしておき、本人の希望やタイミングに合わせた入浴支援を行っている。一人ひとりが本人のペースで入浴を楽しめるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や個性等を把握し、食事の準備、おやつ作り、洗濯物たたみ・モップ掛け等、日常的に継続できるよう支援している。オセロ・小物作り・誕生会・夏祭り・クリスマス会等で楽しみごと、気晴らしの支援をしている。生活環境の整備や楽しみごとの選択肢等の提供を心掛けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関先で日向ぼっこ・お茶飲みを楽しんだり、庭木の水遣り・草むしり・畑仕事・散歩等、希望に応じて屋外での活動を支援している。近隣の物産センターへ買物・食事に出かけたり、季節の花見や公園へドライブを兼ねて出かける等、日常的に外出支援が行われ気分転換が図られている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、一人ひとりの所在確認や状態像を把握し、プライバシーに配慮した見守りを徹底しながら、日中は玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導を得て、避難誘導訓練、消火訓練を実施している。訓練には、運営推進会議メンバーや地域住民も参加している。緊急時対応連絡網を作成している。避難経路の周知や地域住民による協力体制も図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや季節感のある料理を献立に取り入れ、盛り付け等で食欲を促す工夫をしている。食事は形態等個別に対応しており、飲み物も数種類準備し必要量が摂取できるよう配慮している。食事や水分の摂取状況を記録し、職員は情報を共有しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先にテーブルとベンチを設置しており、草花や里山の景色を眺めながらゆったりと過ごすことができる。玄関横の花壇や朝顔の棚、庭木も美しく整備されており、菜園には野菜が植えられている。ホールは天井が高く開放感があり、季節の装飾品や行事の写真等を掲示している。又、テーブル・ソファ等が設置しており、自由な居場所が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族等には、本人の使い慣れたものや思い出のあるものを持ってきて頂くよう働きかけている。各居室には寝具、テレビ、仏壇、ソファ、炬燵、冷蔵庫、衣装かけ、アートフラワー、縫いぐるみ、鉢花、カレンダー等が持ち込まれており、本人が安心して過ごせるような配慮がなされていた。		